

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

ふたたび学ぶ

—さまざまな女性達の生き方—



分類番号 6102 シ

「くじけないで」 柴田トヨ 飛鳥新社

表紙をめくると、優しい笑顔のトヨさんがいる。何十年もおもいを全部飲み込んだような柔和な笑み。こぼれた言葉をひろい集めたような 92 歳の処女作品集は話題になり、映画化もされた。

どの詩もすべて、ごく普通の言葉で紡がれ難しいものはない。でも、どの言葉も詩も、何か、どこかで思いあたるよう。

新川和江さんが「トヨさんのように生きていこう」と贈る文を寄せている。「今もなお、みずみずしい感性をお持ちでいらっしゃるとは、専門の詩人の世界においても、それはきわめて稀なことです。」と。

私も、こんな「みずみずしい感性」を持つ 90 歳をめざしたい！めざせるといいなあ……。 「しなやかさ」と「したたかさ」もあわせ持たねばと思うこの頃です。(A. K.)

分類番号 1203 サ

「きらめいて生きる明治の女性たち」 笹本恒子 清流出版

著者は日本初の女性フォトジャーナリストとして活躍し「社会派」の写真撮り続け、さまざまな分野の時代の人物も撮影している。「明治生まれの男性には気骨がある」という言葉を耳にして女性の中にだって、男性に劣らぬ方が沢山いらっしゃる。その方たちの記録を、後に続く若い方々にぜひ残さなければならぬとこの写真集を誕生させた。構えたカメラの向こう側に写し出された明治生まれの女性、今をきらめいて生きる女性たち 60 人のお元気な日常の姿がコメントと共に掲載されている。さすがに明治・大正・昭和・平成を生き抜いてこられた姿は立派で芯がとおりに感動しながらページをめくった。秋野不矩（日本画家）から吉行あぐり（美容家）までの 60 人。生きる時間との競争で綴られた貴重な一冊である。

(S. S.)

分類番号 2110 ハ

「会いたい人に会いに行きなさい」—あなたの人生が変わる「出会い」の活かし方— 林文子 講談社

著者は 1965 年に社会人となり、2009 年横浜市長になるまでの 45 年間はビジネスの世界で過ごしている。この本はその間の仕事を通して体験したことを、具体的に講演などで話してきたが、或る大学の二年生から講演後に「市長さん、僕たち大学を卒業するまでに何をしたらいいですか。若いときに学んでおくべきことは何でしょうか」と質問をうけ、ここまで歩んできた自分のキャリアが、何かを学びたいと願う若い人達の一步を踏みだすヒントになってくれたらとの思いでまとめられたものである。豊富な経験に裏打ちされた内容は、読みごたえがあり、新入社員などにも充分共感を得られる一冊である。

サブタイトルにある「出会い」は著者だけでなく、自分では決して想像できないことや緊張を体験させてくれる立場の違う人達との関係を築く上で価値がある。加齢と共に目減りしていく交友関係を大切に、少しでも失わないようにしながら、幾つになっても新しい出会いを経験したいと願っている。(K. K.)

分類番号 1101 シ

「キャリア・ダウンのすすめ 大人の女の新しい選択」

島藤真澄・乃木りか ポプラ社

時代の要請に応えようとキャリア・アップをめざし全力で駆けるのも人生なら、みちくさをくいつつ周囲に目を向け、自分を見直したり視点を変えたりしながらゆっくりと歩くのも人生、女にも男にもいろいろの生き方がある。どんな生き方を選んでも、あるいは選ばざるを得なくても、葛藤や悩みはついてまわる。この本は特に子どもを育てる時期の悩み多い女性に焦点をあてて、みちくさを肯定し、しなやかな生き方をしようとする。すなわち、常に全力で走らなくてもいいではないか、キャリア・ダウンするのも人生にはむしろ必要なことだよ。真の幸せとは豊かさとは何かを考えながら、走り続けるばかりでは見えない足元をよく見ようとやさしく語りかけてくる。むずかしい表現はいっさいしてしていないし、かと言ってただすぎてもない好感の持てる本である。どんな場面でも顔を上げて生きたいと願う女性に一読をすすめたい。(S. N.)



分類番号 6102 セ

「烈しい生と美しい死を」 瀬戸内寂聴 新潮社

1911(明治 44)年 9 月に創刊された雑誌「青鞥」の創刊の辞は、平塚らいてうに依る“元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。”という言葉で始まっています。そして“今、女性は月である。他に依って生き、他の光によって輝く、病人のように蒼白い顔の月である……”と続いているのです。

この本は「青鞥」に関した女性達を中心に当時の世相や事件のいくつかを取り上げ、実際に現地を尋ね関係者たちの話を聞き資料を探して、その動向やつながりをまとめて居ります。大逆事件で幸徳秋水らと共に処刑された女性革命家菅野須賀子のこと、らいてう、岡本かの子、田村俊子、伊藤野枝、神近市子、その他多くの女性達。著者は 2012 年の 1 月に 2011 年度「朝日賞」を受賞した社会学者上野千鶴子氏が述べた受賞の言葉の中で、“日本では女性の力が活かされていない。震災からの復興も日本の未来も女性の力なしではできない。女性の声が政治に届いていれば、もしかしたら原発を造らずにすんだかも知れないと痛恨の思い”と述べたことに強い共感を覚え、「青鞥」の時代からどれほど女性がその地位を向上させ得たか自分の書いてきた女たちの生き方をたどり直すしかないと思ったと執筆の動機を語っています。この作品は「この道」という題で書き続けられた随筆(2011 年 11 月~2012 年 4 月まで東京新聞、他に連載されたもの)に加筆修正を加えてまとめられたものです。伊藤野枝に関する事柄が多く取り上げられて居りますが、彼女を死に至らしめた甘粕正彦憲兵大尉の夫人が戦後二人の遺児と共にこの二本松市(旧上川崎村)で暮らしていたことを思うと感慨深いものがあります。らいてうに“月と”評された女性達が“真正の人”になる為にどう生きてきたか、その一端を伺い知る為にもぜひ読んでほしいと思う本です。(W. T.)

分類番号 4206 ソ

「女たちのお葬式」NPO法人葬送を考える市民の会 太田出版

「健康で元気なうちに」「終活」「エンディングノート」……ことなどの言葉に目を止め、耳を傾けるこの頃です。女性がどんな立場で活躍しているかのテーマを(超)高齢社会を迎えようとしているこの時の中で、見つけようと思いました。年を重ねていく過程での医療、相続などの問題も含めて、一人ひとりの納得のいく心のこもった自分らしい葬儀(葬送)のやり方を出し合い、生み出している市民の会があったのです。

大事に伝えていきたい地域の文化や儀式がある一方、慣習にこだわらず、自由にそれぞれの思いを酌んで葬儀を実現していく経過がまとめられています。第三章「旅立ちの衣装の誕生」編に自ら希望したカラフルでユニークなデザインの衣装を作り、ファッションショーで好評だったということが載っています。奇抜なアイデアも取り入れようとする柔軟な女性たちの活動に驚き、興味がわきました。「ハッピーエンド」この市民の会の会報の名です。まだまだそんな境地にはなれないわ……という年齢の方もちょっとのぞいてみませんか。(I. M.)

分類番号 2110 サ

「好奇心、いま 97 歳」 笹本恒子 小学館

彼女の職業はフォトジャーナリスト、報道写真家。表紙の笑顔に引き寄せられ思わず本を手にとった。考え方や生き方に一本の筋があり、常に前向きである。読んでいて楽しくなるし、お手本にしたいと思った。

「老人ホームはやめてリフォームした」「甘えない、甘やかさないが元気の秘訣かしら」など身近なことはばかりである。(T. Y.)

分類番号 1203 ホK

「会津が生んだ聖母 井深八重」—ハンセン病患者に生涯を捧げた— 星倭文子 歴史春秋社

祖母が会津藩家老西郷頼母の妹であった井深八重は、同志社女子学校を卒業し、長崎県立高等女学校の英語教師として長崎に赴任しました。その後身体に異変が生じ、ハンセン病と疑われて神山復生病院に入院しましたが、それは誤診だったのです。しかし八重は病院を去る事はありませんでした。看護婦としてハンセン病患者の看護に一生を捧げ、患者からも「母にもまざる母」と慕われた 92 歳の生涯でした。

著者の星倭文子さんは郡山市の国際女性教育振興会県支部相談役等でご活躍で女性史の視点から八重の人生の歩みを多角的に扱う同本を書き上げました。

「八重は会津を訪れることはなかったが、その生き方は、会津の魂を受け継いでいた。今を生きる私たちに、八重から学ぶことは多い。どんな逆境にもめげず苦しんでいる人の看護を続けた八重の生き方から多くのことを感じ取ってほしい」と記し、最後に「この度の東日本大震災や原発事故で故郷を追われた人々が、どこの地に居ても、その人らしく生きられる日の来ることを、八重は天国から願っているでしょう」と記されております。(K. M.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	女ノマド、一人砂漠に生きる	常見藤代	集英社	1101 ツ
2	孤族の国 ひとりがつながる時代へ	朝日新聞「孤族の国」取材班	朝日新聞出版	2106 ア
3	みんな「おひとりさま」	上野千鶴子	青灯社	3103 ウ
4	100歳じいさん 101歳ばあさん どっこい生きる 100年の知恵	吉田信 吉田ツル	講談社	4101 ヨ
5	人には聞けない恋愛心理学入門	渋谷昌三	かんき出版	3105 シ
6	「働くパパ」の時間術 仕事も家事も育児もうまくいく！	栗田正行	日本実業出版社	3206 ク
7	別居したら夫を好きになりました	安斎かなえ	竹書房	3202 ア
8	尾木ママと考える大震災後を生きる希望のヒント	尾木直樹 石坂啓	金曜日	3207 オ
9	子育てに必要なことはすべてアニメのパパに教わった	柳沢有紀夫	中経出版	3206 ヤ
10	傾聴ボランティア 体験記	ホールファミ リーケア協会	三省堂	4209 ホ

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

図書室より

机の上にはちよつとした甘い物があり、原稿もあつて、それぞれの思いで出来上がった五十一号をお届け致します。

師走に入っても比較的凌ぎやすく、作業ははかどりました。冬將軍もすこし足踏みしてくれたのでしよう。

テーマにそつて本を読み、共感を覚えて、紹介し続けることの難しさも時にはありますが、「散歩道」に目を通して頂き、これなら読んでもたいと思えるような本に出会えるよう、次の号も頑張つてまいります。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 Tel. 0243-23-8308 (図書室直通)

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

本の花束 IV

—とりどりの思い、で—



分類番号 3202 二

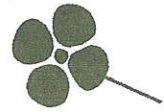
「女房に言っているいい言葉 いけない言葉」

今井登茂子/監修 PHP研究所

夫婦の間で交わされる言葉が年々少なくなっていく…どの家庭でも見られる現象だと思います。必要最低限の「メシ、フロ、ネル」の単語だけが飛び交う、三語族はさみしいですね。

本書は、男が口にしてはいけない「女房怒らせ言葉」と、なかなか言えない「女房喜ばせ言葉」を集めて解説したフレーズ集で失われつつある夫婦本来のコミュニケーションを取り戻すため企画されたものです。

「ウン、これはうまい！・きょうはどうだった？・大丈夫か？手伝うよ・いつもありがとう」、夫のそんな一言でまた明日も頑張ろうと思えてくるのだと思います。(K. M.)



分類番号 J2110 シ1

「みんなのなやみ」 重松 清 理論社

「もやもやしてて、よし！」で始まるこの本は、著者が理論社のホームページ「10代の悩み相談室」に寄せられた質問や相談に回答したものが納められています。今回は、多感な年代の人たちの心を少しのぞいてみようと思いました。「子どものわがままも成長には大事である」、「悩みを持つことはぜんぜん悪くない」・・・など弱さやするさ、どうしようもないことを背負いながら生きることで、人はかえってたくましく生きていけるのでは？10代を中心とした相談者の悩みをまず受け入れ、その心に寄りそい、付き合い方をいっしょに考え、答えてくれています。また著者は現代の子どもと家族が直面している日常にひそむきびしさとかけがえのない生活や状況をリアルな物語としても書いています。当図書室にも「きみの友だち」「ビタミンF」などが入っています。(I. M.)



分類番号 6108 モ

「虫めづる姫ぎみ」

森山 京/文 村上 豊/絵 ポプラ社

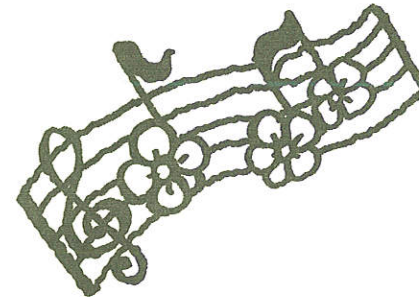
平安時代後期の短編物語集「堤中納言物語」、学校時代に名前だけは習った覚えがありますよね。10話がおさめられている中で、一番有名でユニークなのがこの「虫めづる姫ぎみ」というのが定説です。美しく上品で頭のよい姫なのですが、虫、なかでも毛虫が大好きな大納言の姫ぎみ。そこの男の子と虫取りに熱中しています。男性中心の貴族社会で求められる女性像には見向きもせず、人目を全く気にせず、自分の好きなことに熱中する姫ぎみ。痛快というか、小気味よいというか、平安時代にもこういう女性がいて、またそれをこういう物語に書く人もいたんだということに驚きを感じます。色彩の美しいおらかなすてきな絵とあいまって、スーッと古典の世界に入っていける読みやすさと楽しさがあります。原文を読んでもみようという気になるかも。絵本ってすばらしいです。(S. N.)

分類番号 2205 工

「新幹線お掃除の天使たち」 遠藤功 あさ出版

著書タイトルの言葉「お掃除の天使たち」、東京駅で見かけた赤いユニホームの礼儀正しくテキパキと清掃をこなすあのメンバーのこと？と、すぐに連想できた。「世界一の現場力」はどう生まれたか？という副題で興味津々、もう手にしていた。

JR東日本のグループ会社・新幹線の車両清掃会社「テッセイ」が注目され、働く人たちを「お掃除の天使たち」と呼ばせた訳が小気味よいテンポで展開されている。著者自身が訪問を重ねて得られたプロローグ、日常の現場からの「エンジェル・レポート」で構成された第一部、「キラキラ輝く普通の会社」の誕生までを第二部に盛りこんでいる。会社成功の組織論に終わらず、仕事をする人間の生き方に「プライド」と「リスペクト」を織り込んだ元気が貰える作品である。一部を紹介すると、2011. 3. 11東日本大震災時の東北新幹線車両清掃現場のストーリーには「がんばるぞ！日本」に込められた熱い思いをいただき力づけられた。新春のこの時期ぜひ手にしたい一冊である。(S. S.)



分類番号 1202 ム

「橋はかかる」 村崎太郎+栗原美和子 ポプラ社

学校の図書館にあった「橋のない川」という本を読んで、人が人を組織的に差別する、しかもそれが地域的に存在したということを知ったのはずいぶん昔のことでした。ここ何年か再々奈良県の飛鳥地方を訪れる機会があって、その本の著者である住井すゑの生家が近辺にあり、モデルとなった部落もあることを知りました。住井すゑの生涯を記した幾冊かの本を読み、このことは中世の時代からの歴史的に設けられた階級差別ではないかと思い、中世の非人と遊女について調べてみました。そして今回、この「橋はかかる」という本に出会ったのです。著者の村崎太郎は実際に差別され続けた地域に生まれ、小学校・中学校と差別され続け、人間性を否定されそうになりながら、大道芸の“猿まわし”という家業に生きる意義を見つけて行きます。著者が、自分が被差別部落の出身であることを世間に公表するまでの苦悩、理解者である妻栗原美和子と共にこの著書を発表するに至る過程が、ずっしりと心に響く内容で書かれて居ります。男女の差別、身体的なものによる差別、年齢による差別、残念ながら現在、人が生きて行く中で、有形無形の差別があることは否定できません。でもこの本を読むことによって差別される側の痛みを共感できる人達が増え続けて行けば、共生の未来は明るくなると思います、ぜひ読んでいただきたい本です。

(W. T.)

分類番号 4101 イ

「孤独死の作法」 市川 愛 KKベストセラーズ

まず、題名にドキリとしました。ひとりで息を引き取るのを「孤独死」と言うことです。ひとりで息をひきとるのは単身世帯とは限りませんが、近い将来、単身世帯の割合は全世帯の40%を超えるそうです。高齢化が進む中、単身になることは誰にでも起りえます。これからの時代、避けようとしても避けられない「孤独死」を、明るく前向きに迎えますか。そのため、孤独死の現実をしっかりと見つめ、そして明るく準備しましょう！それが6つの作法としてまとめてあります。いわゆる終活。豊かな人生を送ることが、来る日に備えること。それにしても、やはり備えることは難しいと思いましたが・・・。(A. K.)

分類番号 4201 ハ

「大増税時代を生き抜く共働きラクラク家計術」

花輪陽子 是枝俊悟 朝日新聞出版

今年の4月から消費税が8%、来年15年10月には10%に引き上げられ家計の負担が益々大きくなります。是枝さんは負担増の試算、花輪さんは家庭での対策を中心に具体的にわかりやすく書いています。共働きのメリット、住宅は買うほうがトク？、自動車は？、保険はそもそも入るべき？など今すぐ知りたいテーマばかりです。消費税率10%を乗り越えるため、3つのパターンで具体的な数字や対策・選択肢を提示しているので参考になる一冊です。(T. Y.)



分類番号 4101 ソ

「老いの才覚」 曾野綾子 KKベストセラーズ

著者は子どもの頃から「才覚をもちなさい」と訓練されたそうです。何事に関してもいちいち人に聞かないで、どうしたらうまく出来るか考えなさいと。出来なければ親からも社会からも「あなたは機転の利かない子ね」と叱られたそうです。この本は超高齢化社会を迎えて年を重ねても、自立した老人になる方法を知らない人や、わがままな老人が増えている、そこで自立した老人になるために老いる力をもつことが重要であると“7つのちから”についてまとめられたものです。老いて身体が不自由になった分、脳ミソを働かす。自分の能力が衰えてきたら生活内容を縮小することを考え、物事に優先順位を決めて行動する。自立の気構えが精神の若さを保つ上で大切な要素になっている。自分のことは自分で出来るということが幸せだと感じる人は、幾つになっても年相応に若く、そのことが更にその人の若さを支えている。自分の財産は深く関った体験の量だと思う、などに感銘を受けながら著者独自の辛口とユーモアもある文章にどどん魅了されて一気に読みました。おすすめの一冊です。(K. K.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	3・11女たちが走った 女性からはじまる復興への道	日本BPW連合会	ドメス出版	1101 サ
2	災害復興 東日本大震災後の日本社会の在り方を 問う 女性こそ主役に！	日本弁護士連合会	日本加除出版	1101 サ
3	山中伸弥先生に、 人生とiPS細胞について聞いてみた	山中伸弥 緑慎也	講談社	1202 ヤ
4	国民が本当の主権者になるための5つの方法	日隅一雄	現代書館	2101 ヒ
5	40代 大人女子のための“お年頃”読本	横森理香	アスペクト	2110 ヨ
6	無縁介護 単身高齢社会の老い・孤立・貧困	山口道宏	現代書館	4102 ヤ
7	これからの老老介護にそなえるための心得 40 「老いても生きる」ことの意味と支援のあり方	松本一生	河出書房新社	4102 マ
8	わが子からはじまる原子力と原発きほんのき (クレヨンハウス・ブックレット1)	上田昌文	クレヨンハウス	4207 ワ
9	感情の整理ができる女は、うまくいく	有川真由美	PHP研究所	5101 ア
10	仕事も人間関係も「すべて面倒くさい」と 思ったとき読む本	石原加受子	中経出版	5101 イ

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話
の使用はご遠慮ください。

編集後記

三十数年ぶりの大雪で交通網もまひし、私達の生活に大きな影響を与えた二月の日々も過ぎ、三月のいま、青空に春の気配を感じます。第五十二号をお届けします。今回はメンバーそれぞれの視点で自由に選書し、紹介文を書きました。それぞれの本に紹介者の思いがあり、感動を分かち合いたいという気持ちが生み出ているようです。

あの日から三年、私達も切れ目なく「散歩道」を発行し続けてきました。これからもメンバー全員で、素晴らしい本のご紹介を続けていきたいと思えます。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

本の花束 V

— 視野を広げて —



分類番号 4101 ㊦

「親の家を片づける」 主婦の友社編 主婦の友社

“ものを捨てる、片づける” “断・捨・離” というようなことばがここ数年、テレビや新聞によく登場するようになった。考えてみると、私達も子どもの頃から整理整頓、お片づけと口ぐせのように言われてきた。生来ずぼらな私はなるべく耳をふさいで見て見ぬふり、聞いて聞かぬふりをして過ごしてきたけれど、どこかできりをつけなければと思っていた矢先、このタイトルが目に入って来たのだ。これは親の家ではない、自分の家なのだ愕然とした。片づけるとはどういうことか、それは自分の人生をたどることだということも納得できた。実際に片づけてみて成功したこと、失敗したこと（途中で投げ出したとか）疑問が残ったことなど、具体的に書かれているのでこれを参考に重い腰を上げ、ゆっくり我が家の片づけを始めて行こうと思った。(W. T.)

分類番号 1202 ㊦

「はだしのゲン わたしの遺書」 中沢啓治 朝日学生新聞社

戦後 70 年を迎える時を前に、日本の憲法などに関する話題が毎日のようにテレビ、新聞をはじめ、いろんな方面で広がっています。

「九条が普通の暮らし守ってる」「原子爆弾知らず育つ人多し」

このような川柳を愛する人たちの表現の中にも…。マンガ「はだしのゲン」を学校の図書館から排除しようというニュースにも触れ、ちょっと首をかじげました。「はだしのゲン」は原爆の悲しい側面だけでなく苦難に負けずに、たくましく生きる姿を描いていて共感がもてます。世界 20 カ国語にも翻訳されて、ゲンは世界を歩き回っているそうです。

こんな折「はだしのゲン」著者である中沢啓治の不屈の人生を描いた本書に出会いました。戦争、原爆の悲惨さ、その後を生きた人々のようす、そして福島原発事故の現実も含めて記憶に残すべき作品だと感じました。(I. M.)

分類番号 4101 ㊦

「アラカンの きれいな日々 ワンダーふる」

吉田真由美 パド・ウィメンズ・オフィス

「アラカン」とは「60 歳前後」の人のことを指し 55 歳以上 64 歳まで (Around 還暦) という説がある。まさにアラカンの著者が加齢にともなう体調激変の壮絶な対処を 100 の川柳と共に綴った「遺書」9 万字の著書である。

著書名も川柳という演出の扉をひらくと、1「花の宴 暦めぐりて ギッチラコ」から 100「桜葬 見学に行き 購入よ」までパートナーや友人たちと織りなす人生模様が込められている。映画評論家の経歴を持つ著者が川柳で表現する「生老病死」への思いが軽妙に語られていく、昨今流行りの「エンディングノート」とも受け取れる。22「エイジング アンチといわず 受け入れて」年を重ね変化するのは自然なことと受け止めたいあなたへ、これからアラカンを迎えるあなたへ、もちろんアラカンのあなたへお勧めの一冊である。(S. S.)

分類番号 2205 ㊦

「どうして男は、そんな言い方 なんて女は、あんな話し方」

デボラ・タネン 著 田丸美寿々+金子一雄 訳 講談社

前号の散歩道にて「女房に言っている言葉 いけない言葉」という本をご紹介いたしました。今回は仕事の場に向けそこに表れる男女の誤解を分析したものをご紹介したいと思います。

家庭で夕食のテーブルを囲む男女だけでなく、職場で会議のテーブルを囲む男女にとっても、会話スタイルから生じる問題はときに重大な結末を招きます。簡単なようで複雑な男女間「仕事の会話」について本書は「こんな場合はこうすべし」と命じるマニュアルではなく男女の会話スタイルについての「理解」です。「どうして〇〇は、そんな言い方しかできないの?」「なんで〇〇は、あんな話し方をするんだ?」そんな職場での疑問がかなり解けて、その理解が、問題解決への一歩になってくるのではと思います。(K. M.)

分類番号 2110 ㊦

「誰だってちょっと落ちこぼれ」—スヌーピーたちに学ぶ知恵—

河合隼雄+谷川俊太郎 講談社

アメリカのマンガ「ピーナッツ」を通して、人間が生きていく上で必要な「知恵」について述べられている。

「ピーナッツ」といえば、「スヌーピーやチャーリーブラウン」あたりが、まず思い浮かぶ。谷川俊太郎が、1967 年頃からずっと翻訳している。詩人の心をうけたそのセリフに、考えこんだり、納得したりしたものだった。

この本は「PART1: 自分をおもしろがる、2: 勉強できるよりすごいこと、3: 落ちこぼれはすばらしい」からなり、どこから読みはじめても、気に入ったところだけ読んでもよい。目次を見て、心の動いたところを読んでみてはいかがでしょう。(A. K.)

分類番号 2110 ㊦

「〇に近い△を生きる」—「正論」や「正解」にだまされるな—

鎌田實 ポプラ社

〇や△を書名に入れてこの本を書いたのは現役の内科の医師である。この本はがんばれば幸せになれるを唯一の「正解」としてきたが、がんばるが通りいっぺんのものではない、〇でも×でもない〇に近い△の生き方があることに気づいてほしいと書いている。39 年前身体を失った病人をみて、脳卒中になった人を上手に治療する[正解]よりも、脳卒中にならないようにする健康づくり運動として生活習慣を変える[別解]を考え、訪問看護、デイケア、在宅医療をはじめていく。この過程はくわしく書かれている。

これからの時代に必要な生き方とは、たったひとつの[正解]にしばられるのではなく、幾つもある[別解]の中から〇に近い△を見つけよう、会社でも家庭でも、世界中でもみんながより幸福に温かく回転していくために…。と新たな生き方を提案している。(K. K.)

分類番号 4203 ㊦

「お母さんのための『食の安全』教室」

松永和紀 女子栄養大学出版部

副題が「あふれる情報の“ウソ、ホント”をどう見極める?」「放射線も、食品添加物も、遺伝子組換えも、『なんとなくイヤ…』ではもうすまない!」

私たちのまわりには、食に関するさまざまな情報が溢れています。本当なのかな?と感ずることも時々あったので、読んでみました。

企業や行政が情報を公開することはとても重要です、一方で私たち自身も学び、自己判断力をつけることも必要でしょう。多くの情報の中から信頼できるのは何か、見極める力が求められていると思います。

内容は①食品と放射性物質、②生物から体を守る、③化学物質から体を守る、④思い込みの怖さを知る、⑤リスクの考え方を知る。更に細分化してわかりやすく説明しており、まとめもあるので頭の整理もしやすい。コラムもおもしろい。常識と思っていたことが、別の視点から見ると違ってくる。

「知識を身につけることで、不安が減る」こと、「気をつけるべき 7 項目」を提案している。例えば、「食品を洗い流す」「表示をよく見て利用する」、「特定の情報のみを見るのではなく多角的な情報収集を心がける」。

私たちにもできることが沢山あると感じました。(T. Y.)

分類番号 8201 ㊦

「ルポ貧困大国アメリカ」

堤未果 岩波書店 (岩波新書 1112)

“かつてアメリカがそうであったように、日本でも中間層のサラリーマンが国を支えていた時代には、大学を出れば就職、そして結婚し、家庭を持ってマイホームを購入、退職したら年金暮らしが待っているという「一億総中流の人生計画」が存在した。だが「規制緩和」「民営化」「自己責任」などのキーワードと共に加速していった流れの中で、日本の中間層にいた人々は、過労死やリストラの犠牲となり、「ワーキングプア」「ネットカフェ難民」「医療制度の崩壊」「派遣社員」「教育格差」などの言葉がメディアにあふれるようになったのだ。”

ちょっと長くなったが、以上は本文からの引用である。今日本でも貧困の問題がその深刻さを増している。日本は良い面でも悪い面でも 10 年ぐらい遅れてアメリカのあとを追っているとはよく言われることだがまさしく本書でそれを実感した。2008 年の初版だがその頃のアメリカの貧困の実態が、上記に引用したような今の日本と重なってみえてくる。日本はこれでいいのかと立ち止まって考えるために、アメリカの実態を知るのはいかに意味があると思う。豊かだと言われる中で、ひそかに進行して社会を人の心をむしばむ貧困問題はおそろしい。

(S. M.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	それでも彼女は生きていく 3・11 をきっかけに AV女優となった7人の女の子	山川徹	双葉社	1101㍶
2	貧困のなかでおとなになる	中塚久美子	かがわ出版	2106ナ
3	仕事の王道「疲れた自分」から抜け出す働き方	小宮一慶	日本経済新聞出版社	2205J
4	ずっと独身でいるつもり?	雨宮まみ	ベストセラーズ	3103㍶
5	誕生日を知らない女の子 虐待—その後の子どもたち	黒川祥子	集英社	3211㍶
6	男のおばあさん 楽しく年をとる方法	永六輔	大和書房	4101I
7	フタバから遠く離れて 避難所からみた原発と日本社会	船橋淳	岩波書店	4208㍶
8	絆の構造 依存と自立の心理学	高橋恵子	講談社	5101㍶
9	ふくしまの夢、画用紙にのせて Visions of Fukushima Children	福島県の子どもたち	小学館	6103㍶
10	ダウン症のぼくから おなかの中からのメッセージ	あんどうただし ほそぎたまえ	あいり出版	6108㍶

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

編集後記

風薫る心地良い季節、様々な木々の変化する緑を楽しんでいるうちに初夏の気配が感じられるようになりました。

さて、五十三号ができましたのでお届けします。「本の花束」にこめられた図書に目を留めて、ぜひ手に取られてお読みいただければ幸いです。ご感想、ご意見もお待ちしております。

過日、「未来館ボランティアの集い」に参加して、皆さんと情報交換できました。今年度の活動も豊かに楽しくすすめていきます。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

旅さまざま

— 異文化にふれて —



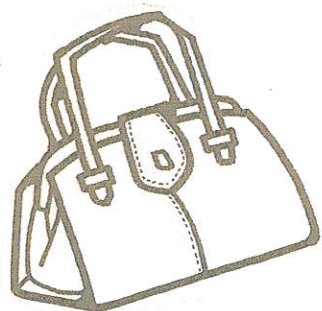
分類番号 2113 イ

「それ行け！子連れ海外旅行」

イルカ著 主婦の友社

東京都在住の著者は、外資系金融マンという世界各国を飛び回って多忙な毎日を送りながらも、子連れで海外旅行をし、その経験をまとめたのが今回紹介する本です。

きっかけは 1998 年、生後 9 ヶ月の長男と行ったハワイ旅行。第 1 章は人気のハワイ、オーストラリア、ニューヨーク。第 2 章はヨーロッパ編、シチリア島やスイス。第 3 章はビーチ編、タヒチ、セイシェル。第 4 章は秘境編、ケニア、タンザニア、イースター島。旅行のヒントもところどころあり、宿泊、レンタカー、プランニング。子どもの病気編では出発前に気をつけること。服装、旅行先の衛生状況、予防接種を受けること、薬も普段飲み慣れた市販薬を少し多めに持っていくこと、英文の診断書など。旅先で何かあった時、診察や治療がスムーズになる。現地での注意点、例えば、食中毒、日射病について。機内でのアドバイス、乾燥のため、濡れたハンカチなどを口や鼻に当てておく、毛布を顔までかぶって寝る、マスクをするなど。これから旅行を考えると参考にしたいと思った。(T. Y.)



分類番号 2113 キ

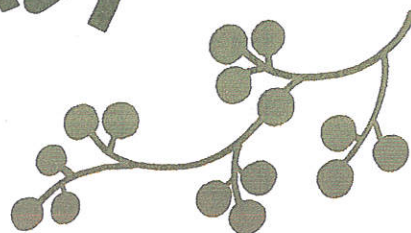
「それでも私は旅に出る」

金櫻 岩波書店

一月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人なり— “おくのほそ道” の冒頭の部分です。旅をテーマに選書することになり、まっ先にこのことばが頭に浮かびました。単なる旅行術や名所案内的に紀行文ではない。別のアルファ—がついた著書はないものかと探して巡り合ったのがこの本です。著者は日本人の牧師と結婚し、自分も日本で女性第一号の牧師となった韓国生まれの女性です。両親・夫を見送り、二人の娘を結婚させて身軽になった著者は、世界の地域や人々、文化をじかに体感したいという切実な思いにとらわれ、職を辞し家を処分してリュック一つで 3 年間の長旅にでるのです。途中、彼女は乳がんを発症して一時帰国、手術後また戻って旅を続けとうとう当初の希望通り、未知の地域、人々文化に巡り合い自分で体感し、理解していくという旅を終えるのです。

荷物は軽いほど良い、思い切るいさぎよさ、ことばが通じない時は心で通じる。観光客でなく旅人として、偶然の出会い必然の別れ・・・娘達と多くの友人達に励まされて長い旅を終えた著者は “なぜ旅をするかって、さあねえ” と松尾芭蕉と共通するような文言を書いて居ります。まずはこのチマチョゴリの日本人が世界へと旅をしたドラマを存分に味わって下さい。(W. T.)

旅は出会い



分類番号 1203 ト

「100 年前からの警告～福島原発事故と朝河貫一」

武田徹 梅田秀男 佐藤博幸 花伝社

「旅」にはいろいろな形があるが「読書の旅」は誰でも気軽に経験できる。

今回は『100 年前からの警告』というキーワードを手にタイムスリップしてみましょう！著者である武田・梅田・佐藤氏たちは 10 年来、朝河貫一、顕彰活動を行ってきている。この三氏を道先案内人にして、東日本大震災福島原子力発電所事故に遭遇した私たちは旅に出ましょう。福島県民だからこそ、福島に住むことを選んだ私たちだからこそ見えてくる「復興・再生の未来」に出会えることを願って。

国会事故調査委員会委員長・黒川清氏の報告書にも記されている「朝河博士の警告」から始まる旅の出発は 100 年前の『日本の禍機』へ誘う。朝河博士の哲学・人となりに触れ、過去から学び、今、日本人として直面している問題にしっかり対峙するためにお勧めしたい一冊である。(S. S.)

分類番号 2113 ホ

「旅人は時空を超えて」

細内律子 現代旅行研究所

私は子供の頃乗り物酔いが激しく、仙石線で仙台駅から母の実家の松島海岸駅まで行くのに、いつも母を心配させていた。酔いどめの薬なしにどこへでも行けるようになったのは、30 歳を過ぎた頃と記憶している。

旅は大好きである。電車での一人旅がいい。会議などに出席しての帰り、その土地に住んでいる知人、親友と駅で待ち合わせ、近況を語り合う時間は、ちょっとしたスリリングでさえあった。これまでに飛行機に乗ったのは 3 回ほど。昔は「鉄のかたまり」が空を飛ぶなんてと言われて私は気持ちが悪く、これからは乗らないと思う。この本の著者は旅行会社に勤め今ふうには言え、ルポライターである。取材した考えや主張を押しつけるのではなく読みやすく、楽しいんで旅に出てもらえるようなものにこの思いがこめられている。傘寿をはるかに越えた私が、この夏の超猛暑日にこれを書いているせいか、時空を超えて旅するとすればこの本の中の霧の港町へ行ってみたい。釧路湿原をめぐり、カヌー遊びを楽しむ人達に会い、北海道の食べ物を満喫したら・・・各ページのちょぴっと可愛いイラストに癒される。(K. K.)

分類番号 6108 ゴ

「ピアノ調律師」

M. B. ゴプスタイン 現代企画室

「こん炉の上に青と白の小さなほうろ鍋と黄色いコーヒーポットをかけ・・・テーブルの上に青いお皿とオレンジ色のお皿・・・白い紙ナプキン 2 枚、テーブルのしたくができた・・・。」と絵を見ているような朝食の風景。老ピアノ調律師と孫娘デビーの心通い合う物語の始まりです。

デビーはおじいさんの調律する音はどんな音楽よりも最も純粋で美しい音楽と感じているので、自分も調律師になることを夢見ています。

この本の作家 M.B. ゴプスタインはシンプルな絵の中に、時には無茶な子どもならではのひたむきさを愛情をこめて、ていねいに語っています。ピアノの内部やチューニングのさまざまな作業の様子が楽しげに描かれていて、興味深いです。(I. M.)

分類番号 2113 イ

「ひとり旅するおばさんにインドの女神はほほえんだ」

磯部和子 創土社

著者は本書を私と同世代の女性とこの体験を共有したい・・・という思いで書かれたとの事です。もし、もう年だからと出掛けるのをためらっている人がいたら、一歩外に踏み出せば年齢はあまり関係ないのです。何ができるかできないかが、性別が決定要因でなくなったように年齢もあまり影響がなくなったと思うのです。

これからは個人旅行も「おばさんの時代」になるでしょう。そんな時代にむけてささやかな貢献ができればと願って本書を書かれたようです。

所々に心が温くなる楽しい漫画もあり行った気分で一気に読めた一冊でした。(K. M.)

分類番号 6102 マ

「心の虹 詩人のふるさと紀行」

増田れい子 労働旬報社

金子みすゞ、中原中也、野口雨情、石川啄木、北原白秋、三木露風、萩原朔太郎、室生犀星、高田敏子、井上靖、堀口大学、中村汀女、この 12 人のふるさととはどこかと聞かれたら答えられますか。私はわずかしかりませんでした。高名な詩人たちのふるさとを訪ね、その詩作品との関わりあい、やさしい文章で、多くの詩を引用しながら綴っているすてきな本です。作者はあとがきで「この 12 人の詩人たちのふるさとに共通するものがひとつある。それは“水”の風景である。」と言っています。それぞれの詩人の作風に深い影響を及ぼした 12 の水の風景、それがどこかは本を開いてのお楽しみ。誰のどこから読んでも自由、おのおのの章につけられた表題がまたすばらしいのです。是非お読みください。(S. N.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	日本の女は、100年たっても面白い。	深澤真紀	ベストセラーズ	11017
2	日本の社会を埋め尽くすカエル男の末路	深尾葉子	講談社	11027
3	こうして女性は強くなった。家庭面の100年	読売新聞生活部	中央公論新社	12013
4	憲法と、生きる	東京新聞社会部	岩波書店	2104ト
5	地震と独身	酒井順子	新潮社	3103サ
6	見逃さないで！子どもの心のSOS 思春期にがんばってる子	明橋大二	1万年堂出版	32067
7	食べ物を変えれば認知症は防げる	白澤卓二	宝島社	4101ツ
8	父の生きる	伊藤比呂美	光文社	4102イ
9	マンガでわかる生活保護 陽のあたる家 生活保護に支えられて	さいきまこ	秋田書店	4106サ
10	そして、メディアは日本を戦争に導いた	半藤一利 保阪正康	東洋経済新報社	7102ハ

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話の使用はご遠慮ください。

編集後記

先日、防災の日を前に小さな合唱発表会のステージで、阪神淡路大震災のときに生まれた復興と希望の歌「しあわせ運べるように」(福島版)を歌ってきました。

今年も猛暑と大雨の続いた八月、予知を絶するほどの大災害もあり、自然の猛威を再び感じさせられました。季節は少しずつ変化していくものと思っておりましたのに、最近ではその変化が大きく、毎日の生活のしかたにまごついてしまいそうです。散歩道五十四号をお届けします。読書の秋、当図書室からの一冊で小さな心の旅を試みませんか。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

わたしらしく生きる

—働く女性に贈る—



分類番号 1101 コ

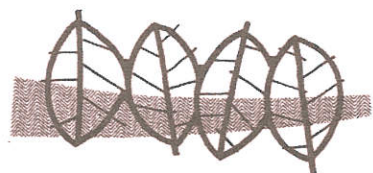
「高学歴女子の貧困」—女子は学歴で「幸せ」になれるか?—

大理奈穂子 栗田隆子 大野佐紀子 水月昭道

光文社新書

ベストセラーとなった「高学歴ワーキングプア」の著者（水月昭道）の恩師早川和男先生からの「良いテーマで時流を押えた本だと思います。しかし、一点足りない。次は女子の高学歴ワーキングプアに光をあててはどうでしょうか？」との一言で本書「高学歴女子の貧困」女子は高学歴で「幸せ」になれるか?ができあがったようです。

現代社会のなかに厳然として横たわる「男/女」という性差にまつわる一筋縄ではいかない社会問題にアプローチし、当事者の本音や立場、そして女子をめぐる日本社会の暗黙の壁や制度上の問題点を浮かび上がらせることにトライしたものです。そのため本書は当事者である「高学歴女子」大理奈穂子、栗田隆子、大野佐紀子、水月昭道の4氏の共著という体裁をとったものです。身につけた学歴を活かし女性が「活躍」できるような社会とは、そして学歴と人生の関わりについて新たな視点を提示する一冊と思います。(K. M.)



分類番号 2202 ウ

「ママも今日から働くワ!」—主婦の再就職講座—

上田晶美 日本経済新聞出版社

著者は昭和女子大学が「学び直しの講座」を立ち上げた折、講師として活躍している。その講座とは女性が仕事につくために、何度もチャレンジ出来る社会の構築をめざしたもので、昭和女子大学学長は“女性の品格”の著者坂東眞理子氏であり、この本の推薦文を書いている。この本は女性が再就職したいと願った時、どんなことに配慮しながら仕事を選び、有意義に働くことが出来るか・・・それを5W3Hで整理してみようとしている。

それはWHO（だれが）、WHAT（どんな仕事に）、WHY（なぜ）、WHEN（いつから）、WHERE（どこで）、HOW TO（仕事の探し方）とある。特にHOW TOでは、①求人媒体（新聞・雑誌・折込チラシなど）②インターネット③ハローワーク④民間人材紹介会社⑤合同企業説明会⑥人の紹介⑦直接応募と、詳しく述べられている。これらの事を検討して仕事につくなら、多少でも不満や不平はなくなるのでは。いまずぐ参考になる一冊と思う。(K. K.)

あなたらしく、私らしく

分類番号 5101 ア

「感情の整理ができる^{ひと}女は、うまくいく」

有川真由美 PHP研究所

まず著者略歴に目を通して驚かされた。そこには、作家・写真家である著者が、化粧品会社事務、塾講師、科学館コンパニオン、ユニクロ店長、着物着付け講師、ブライダルコーディネーター、南日本新聞社編集者など多くの転職を経験した職歴の一部が紹介されている。実に幅広い分野で働いた経験を積まれた著者ならではの「働く女性」へのアドバイスが盛り込まれている作品である。僅か2ページに綴られたショート事例101項目で感情の整理の大切さを説きながら「感情の整理と仕事との関係」「人との付き合い方」「喜びや楽しさ、幸せを手に入れる人生」へとテンポ良く展開されていく内容は気負うところが無い。「最近ふと気づくと、怒りっぽくなっている…、と感じることはありませんか?」と著者が語りかけるストレスの種が数々の女性たち「あなた」のための一冊である。(S. S.)



分類番号 2202 タ

「新 女性の選択 就職 結婚 子育て 転職 昇進」

高橋伸子 マガジンハウス

始めに、勝間和代さんと著者である高橋伸子さんの対談でスタートする。「仕事と生活の両立を目指して」というタイトル。勝間さんは男性も女性も働くのは当然のことで、「ワークライフバランス」が大切。しかし、女性にはハンディがあるという。1つは出産、育児に必要な労力・時間。2つ目は体力差。これを逆手にとって、どう働くかを工夫できるのが女性の特権と話している。ITが発達し、この時間のハンディをずいぶん補えるようになり働き方の変化にも繋がったと。また、女性がステップアップするには自己投資、つまりお金が必要で、働きはじめは頑張って年収分をためることだとアドバイスしている。

著者は、「人生は旅である、とよく言われるが、地図も持たず、目的地も決めず、装備もせずしばらく旅に出たら、行き倒れになる確率が高いはず。それと同じで、充実した人生を送りたければ、それなりの準備が必要。」と述べている。自分にとって理想の人生を考え、働き方も子育ても考えなくてはならないと思った。働いている人にも、これから働こうと考えているひとにもおすすめしたい本である。(T. Y.)

分類番号 6102 ハ

「母への手紙」—見直そう家族の絆—

「母への手紙」作品集編さん委員会

橋本五郎文庫 小玉陽三

橋本五郎文庫とは、ジャーナリストである橋本五郎氏が寄贈した20,000冊をもとに地域の人々が廃校となった小学校舎を利用して作った図書館のことです。この文庫が「母への手紙」をテーマに作文を募集したところ、全国から1,313通の応募があり、その中から選ばれた約120通の手紙が載っています。80代から小2まで。作品の中には全文が感情のこもった秋田弁で書かれているものもあり、内容とよく調和した田園風景が目につかびます。明治・大正・昭和・平成と過ごしてきた母親の人生（一生）と自分との関わりに思いを巡らせている文章には、読者も時には辛苦を越えた優しさに涙がさそわれます。

多くの女性（母親を含めて）が願う生き方がこれらの文章の中からも見つかるのではないのでしょうか。(I. M.)

分類番号 1203 ム

「村岡花子と赤毛のアンの世界」

村岡恵理 河出書房新社

「赤毛のアン」!とても懐かしく、何度も繰り返し読み、ほとんど全部読んだように思います。太平洋戦争中にも翻訳がなされたことや、村岡花子さんについては、テレビを通して知りました。“アン”は、憧れでした。プリンス・エドワード島もいつか行ってみたい所でした。本書は多くの資料や対談を通して、「憧れ」だけでないアンと著者モンゴメリーや花子さんが語られています。「アンと娘リラ」では、大戦による若者の戦死が語られていました。モンゴメリーは1942年に睡眠薬の過剰摂取で亡くなったと2008年に公表されたそうです。「アン」と「花子」はもっともっと多くの事を伝えてくれそうな気がし、シリーズやその外の著書を読みたいと思っています。(A. K.)

分類番号 4101 タ

「老いてこそ上機嫌」 田辺聖子 海竜社

題名にひかれて手に取りました。著者は芥川賞を始め、女流文学賞、吉川英治文学賞、その他数々の賞を受賞して活躍している作家で、私の好きな女流作家の一人です。この本はいわゆる物語、小説ではありません。著者の書いた多くの作品の中から味わいのある断片を抜き取って紹介したものです。読んでいくうちにはっと思い当たる部分、ああそうなんだと心が軽く解き放たれてくるような部分、しみじみ納得できる部分、そんな文章が綴られて居ります。この世の中、生真面目だけでは生きて行けない。明るく、おほらかに、ある意味人生を楽しみながら生きていきたいものです。リラックスしてどうぞ。(W. T.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	家事労働ハラスメント 生きづらさの根にあるもの	竹信三恵子	岩波書店	1101ヲ
2	ジェンダー・クォータ 世界の女性議員はなぜ増えたのか	三浦まり 衛藤幹子	明石書店	1103ミ
3	金澤翔子、涙の般若心経 ダウン症の赤ちゃんが 天才書家と呼ばれるまでの奇跡の物語	金澤泰子	世界文化社	1203カ
4	福島と原発 2 放射線との闘い+1000日の記憶	福島民報社編集 局	早稲田大学出版 部	210672
5	主婦 40 歳、復職めざしてます	現代洋子	KADOKAWA A	2204ゲ
6	ヘイト・スピーチとは何か	師岡康子	岩波書店	2109モ
7	老人漂流社会 他人事ではない“老後の現実”	NHK スペシャル 取材班	主婦と生活社	4101イ
8	看護師という生き方	宮子あずさ	筑摩書房	5104ミ
9	子育てはもう卒業します	垣谷美雨	祥伝社	6102カ
10	じしんのえほん こんなときどうするの？ 地震防災えほん	国崎信江／作 福田岩緒／絵	ポプラ社	6108ク

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

編集後記

政府は女性がいろいろな場で
そして立場で働き続けられるよ
う、多くの施策を講じているよ
うですが、簡単にはいかないの
が現状でしょうか。でも、働く
女性に多くの目が注がれるの
は、とても良いことだと思っ
ています。今号は「わたしらしく
生きる」をテーマに選びました。
自分で考え、生きていく女たち
に「力」をもらえたらいいです
ね。

安達太良山の雪化粧に彩ら
れ、もう今年も終り。元気で新
しい年をお迎えください。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 Tel. 0243-23-8308 (図書室直通)

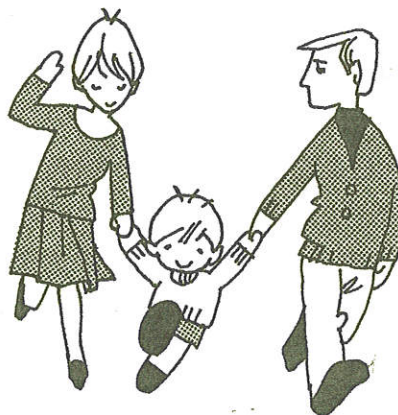
ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

わたしらしく生きる

—働く女性に贈るⅡ—



分類番号 2110ゴ

「ベアテさんのしあわせのつかみかた」

ベアテ・シロタ・ゴードン 毎日新聞社

著者は日本国憲法草案の人権条項作成にたずさわり、女性の権利（日本国憲法第二四条）を明記することに尽力した方である事はあまりにも有名です。その憲法を書く基本となったのも、ママとセンパイ女性たちの知恵でした。そのエッセンスしあわせな人生の送りかたが書かれたものです。

パパとママの結婚から幼少を過ごした日本でのご両親の教育方針、ご自分の結婚・出産（産後1ヶ月で仕事に復帰）、ファミリーの事などやわらかなそしてわかりやすい言葉で心に伝わってきました。一番心に残った所は、私たちはいま宇宙船で月まで行ったりする技術があるのですから、働きながら子供の世話をできるようなシステムをきちんとつくれば、男性も女性も働いても子供を世話できるはず。これはベアテさんから私たちへのエールだと思います。

女性のしあわせはなんでしょう？なにがしあわせなんでしょう？振り返ったり、前をみたりして考えてみたいですね。（K. M.）



分類番号 1203タ1・2

「ゆめはるか吉屋信子」 田辺聖子 朝日新聞社

“吉屋信子”を知っている方はどれほど居られるだろうか。彼女は大正・昭和とゆるやかな自由の時代から戦争の時代へ進む時の流れの中で、少女達の心をつかみ、竹久夢二や中原淳一の絵とともに多くの物語を生み出した人である。戦後更に作品を発表し続け、晩年近くに書き上げた「女人平家」「徳川の夫人たち」はともすれば歴史の中に埋もれそうになる女性の姿を、重要な存在として浮かび上がらせてくれた。著者は、“吉屋信子”の生い立ち、育ってきた社会環境、その作品から伺える、信子の、男性と対等に対峙する女性という人間観を見事に紹介してくれている。著者の読み易い文章に引き込まれ、大杉栄・伊藤野枝・甘粕正彦まで出て来る生い立ちの頃の社会情勢、そして数多くの文学関係者女流作家達との交流、及びその人々。足尾銅山谷中村の田中正造翁、安積野開拓の中条百合子、その他知っている名前が次々に出て来てえっこんな人物もつながりがあったのかと飽きさせない。上下巻の2冊はかなりの量であるが、本当に面白く読むことができた。“吉屋信子”は七十七才で死去したが、彼女の一生を家庭環境、社会環境、作品群から分析し、その軌跡と共に、大きな社会史女流文学史として、ほぼ10年の時間をかけてまとめあげた著者に敬服する。（W. T.）



分類番号 3101ワ

「事実婚 新しい愛の形」 渡辺淳一 集英社新書

小説家で医者でもある著者は、最近の日本の男女の未婚率が高まっていることに注目し、なぜ・・・？の疑問を婚姻制度にあるのでは、と新しい婚姻の形にスポットを当てています。新しい結婚の形とも言える事実婚—婚姻届を出さない結婚—を選ぶカップルが増えつつあることから、変わりつつある結婚の形や事実婚の法的な面についても疑問に答えています。

体験者たちとの座談会や弁護士との対談を通して多様な生き方が認められ、男女が共にいきいきと安心して活躍できるようにという願いが込められています。

少子化から出生率を高めたフランスの例や、新しい法整備が必要なことなども載っています。若い人からその家族の人たちも事実婚についてちょっと考えてみませんか。（I. M.）



分類番号 2202ウ

「働くママに効く心のビタミン」

上田理恵子 日経BP社

「ワーク・ライフ・バランス」の推進が叫ばれて久しい現代社会は働くママにやさしい社会でしょうか？

働くママの著者自身が仕事と家事・子育ての両立に悩み奮闘していた体験から「キャリアと家庭両立をめざす会」を一人で立ち上げ働くママを応援する。小学3年生だった長男から発せられた言葉「お母さんは夢をあきらめたんか？」をきっかけに17年間勤務した会社を退職して、ワーキングマザーを総合的に支援する株式会社マザーネットを創業する。お金で得られるものを働く理由にしないで「働くママの支援に一生をささげたい」と、子ども達に母親の夢を本音で語る姿に感動をおぼえる。仕事（WORK）育児（PARENTING）夫（HUSBAND）保育（CHILDCARE）学校（SCHOOL）地域（NEIGHBORHOOD）生活（LIFE）に処方された心のビタミンをあなたも是非お試しください。（S. S.）

分類番号 2202タ

「脱・不機嫌な女」 武部純子 柏書房

働く女性が毎日できるだけ楽しく、イキイキと生活するためにアドバイスしています。女性が働く時には「不機嫌の素」が3つあると言う。その3つとは「夫」「職場」「子育て」であり、その3つを解消、軽減できることを紹介しています。例えばゴミ出し、夫がゴミを出す手伝いをしているとしてもその前段階、つまり分別するにしても手間がかかることを知る。単に収集日に合わせて出すことではない。ごみ移動とごみ出しは違うと。ごみだしはゴミ箱に入れてからごみを集め、次のごみ袋をセットするまでがゴミ出しと言う。夫と妻の間では意識の違い。夫がごみ収集日に袋を持っていくことだけに目が行きがちだが、そうではなく全体を指して言うべきと著者は述べている。（T. Y.）



分類番号 J2101イ

「あした選挙へ行くまえに」

池上彰 河出書房新社

「選挙なんて関係ないよ」というアナタ。時代は変わった。君の投票で世の中は変わる！」と著者は、2008年の出版時に若者に向けこの本を書きました。以来、世の中は大きく揺れ動いていきました。原発事故以来、私達県民も、悔やみ切れない思いと不安を抱えています。なすすべを見つけれないでいます。でも、わかっていることのひとつが政治です。生活のすべての根が政治につながっているのは確かですが、投票率の低さは、どうなのでしょう。今は期日前投票もあり、私達の考えを表明するのは、そんなに難しくない・・・。「14歳」の人も、それ以上の人もいっしょに、「選挙」の大切さを考えていきたいと思います。（A. K.）

分類番号 4101ヨ

「90歳。一人暮らしをたのしんで生きる」

吉沢久子 海竜社

著者は家庭生活の中からの見聞や、折々の暮らしの問題、食文化などについて、執筆や講演活動を通して提案してきた。現在は特に老年の生き方についての意見に共感が寄せられている。

この本は四季折々の暮らしの知恵を料理に思いをよせながら書いている。この時期でいえば、若い人々には好き嫌いが分かれるところだが鮭と野菜たっぷりの「酒糟汁」は、からだを温まり、ほっこりさせてくれる。自分で調理し、バランスよく食べ、食への感謝を忘れないようにする。食生活だけでなく、生活のすみずみにおいても、カんだりせずに視点を変えてみることの大切さを述べている。今日の気力、体力を明日に持ち続ける心がまえの数々は、あとに続く私たちに力を与えてくれる本である。（K. K.）

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	野口英世の母シカ	田中章義	白水社	K1203ク
2	フランスに学ぶ男女共同の子育てと少子化抑止政策	富士谷あつこ 伊藤公雄	明石書店	13017
3	すぐにわかる集団的自衛権ってなに？	戦争をさせない 1000人委員会	七つ森書館	2108セ
4	ヘイストピーチってなに？ レイシズムってどんなこと？	のりこえねっと	七つ森書館	2109ノ
5	ひとり親家庭	赤石千衣子	岩波書店	3103ア
6	「空き家」が蝕む日本	長嶋修	ポプラ社	4203ナ
7	比べずにはいられない症候群	香山リカ	すばる舎	5101カ
8	14歳からわかる生命倫理	雨宮処凛	河出書房新社	J5104 ア
9	歩いて行く二人 岸恵子 吉永小百合	岸恵子 吉永小百合	世界文化社	6102キ
10	中国メディアの現場は何を伝えようとしているか 女性キャスターの苦悩と挑戦	柴静	平凡社	7102チ

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話
の使用はご遠慮ください。

編集後記

五十六号がまとまりました。今号のテーマもなかなか重いものです。自然も、世の中も、世界も、何か混沌として底知れぬ恐ろしさを感じさせる昨今です。いわゆる「イラム国」による日本人二人の殺害は、私どもが育んで来た人間性というものを根本から否定するものでもありました。私達はそれでも、人間としての英知を、これからどう守り育んでいくべきか深く考えさせられます。春の訪れが待ち遠しいと思います。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

それぞれの生きかた

— 自立と介護と終活と —



分類番号 4102 ム

「驚きの介護民俗学」 六車由実 医学書院

民俗学とは或る民族の伝統的な生活文化、伝承文化を研究の対象とし、文献以外の伝承を有力な手がかりとする学問[広辞苑第六版]とある。

著者は大学で民俗学を教え学生達をムラに連れていきお年寄りたちに村の暮しについて聞き書きをして来たが、現在は特別養護老人ホームで、介護職員として勤務している。

ムラと施設では場所は違うが、介護現場での聞き書きは心身機能が低下し、常に最後を身近に感じている利用者にとって一時的ではあるが弱っている自分を忘れられる。ターミナル期を迎えた高齢者の生活をより豊かにするきっかけになるのではとあり、高齢者の心のうちを知ることが出来て興味深い。

更に介護予防ではなく、介護準備と言うコトバを使ってみたいと書いている。それは介護状態になる前に介護される為の物理的、精神的な準備を意味する。物理的とはその費用を準備しておく、長年の生活で蓄積された生活用品を整理することである。精神的とは介護施設での介護を体験してみることで家族の意向に傾きがちな現在の介護施設の状況を、本来の利用者の立場からの選択につながることにすると提案している。

(K. K.)



分類番号 4102 ノ

「すみません。介護のしごと、楽しいです。」

のちりょうこ・文 大越京子・マンガ 第三書館

老人ホームに入居されている方やホームの管理者をされている方などを最近訪ねる機会があり、ディサービスの利用者とともに職員(スタッフ)の人たちと触れ合う時間を過ごしました。自分も介護の必要になるこれからを前にして、この本のタイトルに魅せられて手に取りました。

著者の働いている場所は短期入所生活介護施設、一般的には「ショートスティ」と呼ばれていて、介護の必要な方(主にお年寄り)が、ふだん住んでいる家を離れて、短期間宿泊する施設です。本の内容は、「コラム…ヘルパーは考える杖である」とマンガをはさみながら、いろんなタイプのご老人たちとの出会い—認知症とは思われない、優しくキュートな笑顔の人、タフな感情の人々—など興味深い人間模様が描かれています。「ボケでもいいじゃない!」と新米介護スタッフである2人の著者が見た、笑えて・泣ける認知症の世界…です。

(I. M)

分類番号 4102 シ

「わかってあげよう介護以前の親の心と体」

下仲順子 家の光協会

かつて経験したことのない高齢化社会を迎え、男女とも世界最高水準の長寿を維持している日本は、人口の年齢構成中の高齢人口の割合が1970年に7.1%、1995年に14.9%を示し、世界で最も急速に高齢化している。

臨床心理士でもある著者は、中高年世代の子どもと高齢の親という親子関係にあらためてコミュニケーションの大切さを説き、「いざ、介護」にあわてないためのヒントを提案して、新たな関係づくりを導いている。

子ども側の親に対する間違っただけの思い込み「高齢者イメージ」への問いかけに思い当たり頷ける。親の気持ちを理解したいと思い読み進めていくと「心と体の変化」を高齢者心理学の立場から解説されて納得できた。普段からのコミュニケーションで「よりよい親子関係」をめざして親の介護に備える。いずれ我が身のことへと、示唆に富む一冊であった。

(S. S.)

分類番号 4102 タ

「男の介護」—48歳サラリーマンの選択

竹永睦男 法研

ご自身の父親の介護を通して、男性が介護する立場になった経験を綴っている。両親の面倒は長男が看るもの、女性が看るものという思い込みがあったけれど、それは思い違いであったという。超高齢社会の時代、「夫婦共々元気で長生き」、これは誰しもが抱く希望であろう。しかし、どちらかが介護状態になった時、特に男性が介護する側になると、さまざまな問題が出て来る。まずは、料理そして掃除や洗濯、これは日々の生活では当たり前の事と女性はやってきたことであるが、男性は初めてやることばかりなのだろう。また、両親の事となると急にその介護する立場になるため、心の準備も出来ていないのかもしれない。早くからその準備をすること、兄弟で話し合いをすることの大切さを述べている。男性に読んでほしいのは勿論であるが、女性が読むと介護に対するちょっとした感覚の違いが発見できると思いました。

(T. Y.)

分類番号 4101 ナ

「おひとりさまの終活」—自分らしい老後と最後の準備—

中澤まゆみ 三省堂

最近よく耳にするようになった「終活」という言葉ですが、「終活」とは自分の葬儀やお墓のことを事前に決めておいたり、遺言に加えて自分の願いをエンディングノートに書いておくといった、終末に向けての準備活動と思われる方が多いと思います。この本での終活とは、死後のことより大切なのは「そこそこいい人生だった」と思って旅立てるよう、できるだけたっぷりと生きることだ。一人ひとりが自分のステージに合わせ、自分仕様の“いい日旅立ち”を準備することではないかと。

終活の第一歩は「就活」から見守り力は自分力など、ホップ、ステップと人生をたっぷり生きて、ゆるやかなランディングへと向かうためのヒントがいっぱいつまった本だと思います。

(K. M.)

分類番号 3201 ヤ

「家族難民」—生涯未婚率25%社会の衝撃—

山田昌弘 朝日新聞出版

本書では十分な介護を受けられない人のことを「介護難民」というように、家族のサポートを受けられない人たちのことを「家族難民」と呼び、「家族」とは「シングル」とは何かから説きおこしています。「シングル化」が問題になってきた社会のしくみの変化が、丁寧に語られています。親の年金頼りの中年シングルが増加していることや高齢者への虐待問題なども語られています。1990年代の親に依存する若者達を「パラサイトシングル」と表現、造語したのは著者なのだそうです。1950年代の平均寿命は、男58才女61才。それが今や女は86才を越えています。いずれ必ず「シングル」にはなる。そんなこともあわせて、「家族難民」の増加をどう防ぐか、その方策も提示されています。

(K. A.)

分類番号 2110 イ

「あきらめない人生」

—ゆめをかなえる40からの生きかた考え方—

池田理代子 海竜社

著者は劇画「ベルサイユのばら」で一躍脚光を浴び、一大ブームを巻き起こした池田理代子さんです。彼女の「女帝エカテリーナ」五巻は私が初めて劇画というものを買い求めた時のものでした。今も書棚に並んでいます。今回は著者とその書名にひかれてこの本を選びました。序章“いったん諦めるところから諦めない人生が始まる”から第5章“心の眼と耳をとぎすませて”まで、二百頁未満の文章ですが四十代でそれまでと全く別の道を歩もうと生き方を変え実行して行く意志の力に圧倒されました。実人生で経験したこと、感じたことそして学んだこと、書かれていることはいずれも何らかの面で自分にも覚えがあり共感できるものでした。“あきらめない人生”。良いですね。おすすめです。

(W. T.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	いわさきちひろ 総特集 平和を願い、こどもを描きつづけた画家	ちひろ美術館	河出書房新社	1203 チ
2	人生はドンマイドンマイ	美輪明宏	家の光協会	2110 ミ
3	人間、最後はひとり。	吉沢久子	さくら舎	2110 ヨ
4	介護はつらいよ	大島一洋	小学館	4102 オ
5	ヘルパー、今行きます。	佐藤清勇	風詠社	4102 サ
6	不幸な認知症幸せな認知症	上田諭	マガジンハウス	4102 ウ
7	100歳までボケない 常備菜で10分レシピ	白澤卓二 牧野直子	家の光協会	4203 シ
8	死ぬときに後悔しない医者とリスクの選び方	岡田正彦	アスコム	5104 オ
9	依存症のすべて 「やめられない気持ち」はどこから来る？	廣中直行	講談社	5101 ヒ
10	ずっと健康だと思っていた。34歳脳こうそく克服記	有田奈央	イースト・プレス	5105 ア

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

編集後記

私は三月に初めての船旅を楽しんで来ました。十日間という短い旅でしたが、とてもリフレッシュ出来ました。その船旅には、ご夫婦でお友達という方も多かったのですが、お一人で楽しまれている方、車イスをご利用の方も沢山いらっしゃいました。そして船の中で、一年のほろなどを過ごしている、そんな方もいらして驚きでした。確かに高齢になると旅行は行きたくても、大きな荷物を持つての空港・駅での移動や長時間バスの中は大変ですが、その点、船の旅は足腰が弱くなくても長く楽しめる旅なのかと思えました。それには、まず、しっかりと働いて、そんな船旅が楽しめるように準備しなければいけないですね。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

それぞれの生き方Ⅱ

— 年代を超えて —



分類番号 2104 ヒ

「十代のきみたちへ—ぜひ読んでほしい憲法の本」

日野原重明 富山房インターナショナル

1911 生まれ、102 歳（2014 年現在）の医師であり作家でもある著者が、なぜこの憲法の本を書いたか……。それは「いのちを守る」という医師の仕事に、日本の憲法が深い関係を持っているからと述べています。いのちの大切さ→平和→憲法（日本の憲法のすばらしさ）のつながりを子どもに一番勉強してほしいと願いをこめて、日本の憲法をわかりやすく説明されています。

日本国憲法とはなにかから改正をめぐる動き、若い人たちへの期待などがわかりやすく、理解しやすい文体で書かれています。付録として日本国憲法全文にカナがふられて載っています。親子で読まれて、読後感など話題になったらいいなと思います。選挙権が 20 歳から 18 歳になったこの機会に。（I. M.）

分類番号 4101 サ

「毎日を輝いて生きるコツ」

—無理せず、好きなように、私らしく—

佐橋慶女 大和書房

そんなコツがあればねえと昨今のただならぬ世相を思いながら読んでみました。まず、序文に「“自分は年だから”とか、“見てもいない世間の目”を気にしないこと」と書かれていました。共感を覚えじっくり読み進みました。第一章から第四章まで、それぞれ小さな項目を立ててまとめてあるのでとても読み易く、中でも「心よろこばせ」という表現が新鮮でした。自分も著者のようにチャレンジ精神を無くさず、暮して行きたいと思いました。心が元気になる本です。

（W. T.）

分類番号 4101 ニ

「図説 女性と高齢社会」

—あなたのライフプランニングのために—

財団法人日本女性学習財団

各テーマを様々な統計から読み解くというスタイルをとっています。日本は世界でも長寿であり、特に女性は長生きで一人暮らしになった時のことを考えるにも、統計でみる数字は説得力があります。現状と課題も見えてきて解決へつながるヒントも沢山盛り込まれています。介護に関しては、「介護者は、夫は妻に、妻は長男の妻や長女にというように家族の中で、女性は介護の担い手として位置づけられています。」というように、グラフと共に解説も付いています。

いろいろな角度からみる数字はおもしろく、深刻なテーマも前向きに考えることができると思いました。（T. Y.）

分類番号 6102 カ

「人よ、^{ゆるや}寛かなれ」

金子光晴 中央公論新社

書棚にひっそりと並んでいた中公文庫である。表題にひかれて手に取った。著者の金子光晴が高名な詩人であることは知っていたが、その詩作品は読んだことはなかった。この本は彼晩年のエッセイ集でたくさんの短い文が集められている。どの文も自由でユニークな視点で綴られており、楽しくなってくる。その中から浮かびあがってくるのはすべてを楽観的に考え、自分にも他人にも心寛かに向きあって、一言で言えばせせこましくなく生きる姿勢である。

最後の方に「こころというもの」という文章があり、「心はゆるうごいたり、こわれたりしやすいものだ。皆さん、こころを大切にいたしましょう。」と結ばれている。心の持ち方ほど大切なものはない。心を大切に手入れしながらおおらかに生きていきたい。金子光晴の詩作にも折があれば触れてみたいと思う。（S. N.）

分類番号 4101 シ

「食べ物を変えれば認知症は防げる」

白澤卓二 宝島社新書

この本は 2014 年 3 月 14 日第一刷発行とあり、まず書名に魅せられて手に取ってみた。最近書かれた本で、著者は東京順天堂大学大学院教授である。さまざまな脳の疾患によって発症する認知症の代表的な病であるアルツハイマー病は、予防のしようがない病気ではなく、生活のなかの危険因子を減らすことで劇的に病を減らすことが出来ると言う。危険因子とは、肥満や高血圧、糖尿病、喫煙、運動不足などのいわゆる生活習慣病のこと。不適切な生活習慣を改善するには食生活を見直すことが必要であると書いている。内容は認知症を防ぐための基礎知識、防ぐための食べもの、防ぐ食べ方、こんな食事はやめなさい、と多様な例をあげ、平易な文章でわかりやすい。

最近トランス脂肪酸がよくないと耳にした。マヨネーズ、マーガリン、ショートニング（食用油脂）などに含まれる脂質のことで、多量に摂取すれば動脈硬化をひき起すというもの。私は後期高齢者なので、長年に亘って摂ってきた。もう遅すぎるかも。これからの方々はこの本を読むか、手許において正しい食生活をおくり、軽やかに人生を送って頂きたいと思う。おすすめの一冊である。（K. K.）

分類番号 2110 カ

「誰だって ちょっと 落ちこぼれ」

—スヌーピーたちに学ぶ知恵—

河合隼雄+谷川俊太郎 講談社

アメリカのようなきびしい競争社会で、周囲が敵だけに感じられるなかで暮していくには、空想を楽しまないと精神的にやっていけない。空想力は、人間に与えられたとても大事な力だと、河合隼雄は書いています。

多くの犠牲から得た平和の中で、慣れ育ってきた戦後 70 年。今大きな岐路に立っているのかもしれない。しかし、何が出来るのか。次のそして次の世代に何を残せるのか。無力を痛感しつつ、つい目をそらしてしまいます。スヌーピー達の世界を、パラパラめくりながら、会話を楽しみ、考え、味わう。現実逃避ですが、スヌーピー達から、ちょっと、「知恵」を学び、いかしていきたいと思えます。自立も平等も未来も、すべて「平和」あってこそ。（A. K.）

分類番号 K6201 タ

「エプロンはずして夢の山」

田部井淳子 東京新聞出版局

この本は平成 7 年 9 月から平成 8 年 1 月まで、東京新聞・中日新聞・北陸中日新聞に掲載された「この道」を一冊にまとめたものです。1970 年初の海外遠征でネパールのアンナプルナ III 峰に登頂、1975 年エベレスト日本女子登山隊の副隊長として遠征、世界最高峰の女性初登頂者となりました。

初めての海外出発の日、洗濯はしてきたし、パンも買った、あッ！バターを買うのを忘れたかな。でもまあ、あとは何とかしてくれるだろう。夫や子どもたち、家族の協力がなかったら成し遂げられなかった事と思います。

遠征の荷造りや集会時は夫が子どもを連れて出かけてくれたし、子どもが熱を出した時も手助けをしてくれたのは夫。学校からの連絡に給食のおじさんと間違われたり、父子家庭と思われたりと田部井淳子を支えた家族の事、特にそれぞれの写真等には心打つものがありました。

そして、今後もこの路線を私は走り続けるだろう。夫の健康や子どもの成長を気遣いながら、田舎の友人と芋煮会の予定をたてたり、知られざる山々へ登り続けたい。ああーおもしろかった、と思って死んでいけるようにと夢を追いかけていきたいとの事です。（K. M.）

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	フラガール物語 常磐音楽舞踊学院 50 年史	清水一利	講談社	1201 ッ
2	女はいつからやさしくなくなったか 江戸の女性史	中野節子	平凡社	1201 ナ
3	マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女	マララ・ユザイ パトリシア・マクミック	岩崎書店	1202 1
4	だから日本はズレている	古市憲寿	新潮社	2106 7
5	おひとりさま出産	七尾ゆず	集英社クリエイティブ	3205 ナ
6	こんなにちがう！世界の子育て	メリッサ・ホグウッド	中央公論新社	3206 ホ
7	ペコロスの母の玉手箱	岡野雄一	朝日新聞出版	4102 オ
8	はたらく女子の夜遅ごはん	おおたわ歩美	大和書房	4203 オ
9	最貧困女子	鈴木大介	幻冬舎	5207 入
10	明日は、いずこの空の下	上橋菜穂子	講談社	6102 リ

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話の使用はご遠慮ください。

編集後記

この夏、数十年ぶりとも言われる四十度近くにもなる記録破りの猛暑日が続き、連日熱中症予防が呼びかけられました。立秋を過ぎても、庭木への水やりも欠かせません。

戦後七十年の節目を迎えたこの夏、戦争の体験を語る人たちが少なくなってきました。

当図書館でも七月特集で、「戦後七十年ひとりひとりが考える戦争と平和」というタイトルでコーナーが設けられました。平和と憲法についてもう一度考えてみるよい企画だったかなと思えました。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

福島県男女共生センター図書室だより

第 59 号
2015. 12. 20

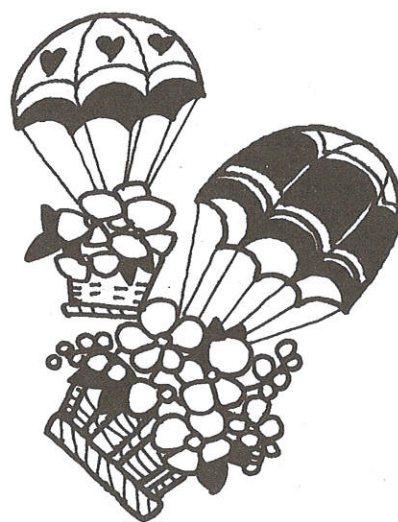
ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

忙中 書あり

—お茶をかたわらに—

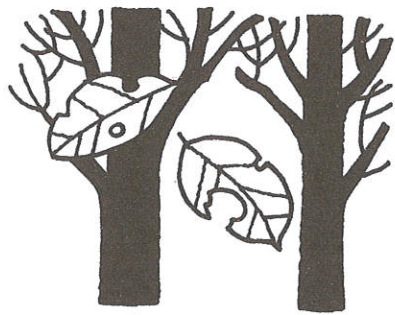


分類番号 4106 サ

「マンガでわかる生活保護 陽のあたる家
～生活保護に支えられて～」
さいきまこ 秋田書店

よく新聞の片隅に、今月は生活保護の世帯数が過去最高になったとか、前月よりいくらか減ったとか出ています。私たちは生活保護という制度やその実態についてどれだけのことを知っているのか、どんな態度でそれに向き合えばいいのか。最後のセーフティ・ネットとしての生活保護について、さまざまな危険や落とし穴に満ちている今の世相だからこそ、貧困がじわりと拡大しつつある今だからこそ、知り、考えることが大切だと思います。自分には縁がないなどと無視せず、知識があることで誰かを助けてあげられるかもしれない。

この本はそのための入口を示してくれる役にたちました。「マンガ」という手法をとっていますので、何よりとっつきやすい本です。本の作り手の方々の真剣さが伝わってきます。むずかしい論考と違い、一気に読めますので、どうぞお手にとってください。(S. N.)



分類番号 4106 ハ

「終りよければすべてよし」
羽田澄子 岩波書店

著者は記録映画作家。岩波映画製作所に入社して老後をテーマにした作品を手がけてきた。私は 1997 年作の「住民が選択した町の福祉」を放映した番組をみている。秋田県鷹巣町の福祉を取り上げたもので、当時は痴呆という言葉を使っており、医療現場や健康を保つための行政のとりくみに目をみはったものである。今は認知症と呼ばれるようになってこの本と出会った。

書名のフレーズは、医療現場では人生の最期を意味しよりよいそのときを迎えるために、何をしたらいいか、今何が出来るかを在宅医療の医師、看護サービス事業の経営者、行政の首長、政策立案者、介護家族らと共に語り合い、これからの医療のあり方や課題を描き出している。

日本医科大学では一年次の学生に「人の病、生、死について考えること」を通して、医師として必要な人格を、将来にわたって育てゆくことを目的とする授業に、この映画を見てもらって討論しレポートを提出させるそう、四人の学生のレポートは読みごたえがあった。この映画の採録シナリオも載っており、興味ぶかく読める。(K. K.)

猛暑の夏もいつの間にか過ぎて肌寒い日が続きます。今年の流行語や漢字の選定もニュースに出て来るようになりました。今回取り上げた本はそれぞれ考えさせられる問題を持っているかと思えます。選書の参考にさせていただければうれしです。

分類番号 2106 テ

「豊かさへ もうひとつの道」
暉峻淑子 かがわ出版

「人は尊敬され、徳をもった生活や仕事ができるような人、そういう本当の人間を育てたい。国が一番やらなければならないのは教育です。」とは最近聞いたある科学者のことばです。

今、日本の子どもの 6 人に 1 人が貧困の時代といわれ、平等に受けられるべき暮らしのもと（教育や社会保障など）が揺らいでいます。

経済学者でもあるこの本の著者は、経済競争の社会の中で、自然を大切に、人間らしい暮らしを送ることを願いつつ、自らの体験を通して「豊かさとは何か」と問いかけています。海外の難民キャンプや阪神淡路大震災後の援助活動の様子などから、互いを信頼し合い助け合う喜びはおおきく「人との真実のふれ合いがあった」と書いています。(I. M.)

分類番号 3210 サ

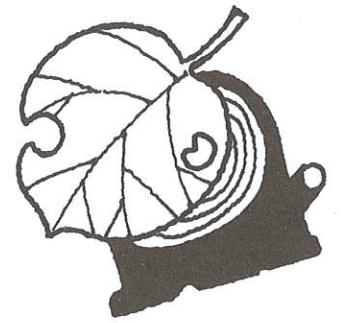
「ひきこもりのライフプラン」
斎藤環 畠中雅子 岩波書店

副題の『「親亡き後」をどうするか』を見て手に取りました。前半は、「ひきこもりの理解と対応」を斎藤環が、後半は「ひきこもりのライフプラン」を畠中雅子さんが担当している。ひきこもりの原因や症状、集団適応支援や家庭内暴力への対応などについて述べている。その中で、斎藤氏は「メールや掲示板の利用が有用となる場合が少なくありません」と言っていることになるほどと感じた。後半のライフプランでは働けない状況が続く前提でプランを立てること、そのために親の資産・負債の洗い出しから始めましょうとアドバイスしている。もし親に介護が必要になったら、別居や家の建て替えも必要になるかも知れないし、成年後見制度の利用も考えなくてはならないと思うと、自分たちの問題でもあった。付録のモデルプランやシミュレーションも参考にしたいかがでしょうか。(T. Y.)

分類番号 1202 ク

「トットひとり」 黒柳徹子 新潮社

思わず声を出して笑ってしまう、そんな箇所がいくつもありました。テレビ草創の頃から女優、声優、コメンテーター、司会者として出演し、現在も活躍中の著者が、その間に関わった沢山の人達とのエピソードをユーモアを交えながら記したエッセイです。テレビの初放送は 1953 年 2 月 1 日で、テレビの受像機は日本全国で 866 台しか無かったそうです。すべて生放送なのでドラマ放映の時の場面転換時やその他の苦労話、失敗話、涙ぐましい奮闘ぶりなどが語られています。ぼんぼんと出て来るエピソードには森繁久弥、渥美清、沢村貞子、久世光彦、向田邦子、中村八大、永六輔、坂本九さん等の方達とのふれあいもあり、心を打たれます。その他、名前や作品名を見るだけでその場面を思い出したり想像できるような小さなお話が紹介されて居り、ああこの人にはこんな人間性があつたんだと改めてうなずかされる所もあります。私にとっては掘り出し物の本でした。おすすめて。(W. T.)



分類番号 4101 カ

「人生の午後に生きがい奏でる家
音楽家ヴェルディが遺した『憩いの家』に学ぶ」
加藤浩子 中経出版

著者が、ヴェルディの伝記「黄金の翼＝ジュゼッペ・ヴェルディ」を書く過程で、「憩いの家」にめぐりあつたのです。「音楽家のための憩いの家」は十九世紀のイタリアで活躍した作曲家ヴェルディが建てた、音楽家のための老人ホームです。ミラノ屈指の高級住宅街の一角に建ち、創設者の名をとって「ヴェルディの家」と呼ばれ、五十余人の高齢者が入居しています。ヴェルディはなぜ「憩いの家」建てたのか・・・？同じ価値観を持つ仲間と歩む「憩いの家」の人びとが奏でるメロディーが聴こえてくるように生き々と書かれておりました。著者は、彼らの生き方を、そして「憩いの家」という素晴らしい場所の存在を一人でも多くの人に伝えたい、そう思って書き始めたとの事です。それは、音楽に限らず、自分のやってきたことを認めてくれる環境の中で、人生を終える、それは人間としてとても幸せなことではないでしょうか。自分の生きがいを奏でる家を探してみたい、そんな事を思える一冊でした。(K. M.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	シングルマザーの貧困	水無田気流	光文社	1101ミ
2	整形した女は幸せになっているのか	北条かや	星海社	1101ホ
3	しんがりの思想 反リーダーシップ論	鷺田清一	KADOKAWA	2110ワ
4	会社で起きている事の7割は法律違反	朝日新聞「働く人の法律相談」弁護士チーム	朝日新聞出版	2201ア
5	この思いを聞いてほしい！10代のメッセージ	池田香代子	岩波書店	3210イ
6	貧困の中の子ども	下野新聞子どもの希望取材班	ポプラ社	3210ヨ
7	子どもに貧困を押しつける国・日本	山野良一	光文社	3210ヤ
8	おじいさんになったね	南伸坊	海竜社	4101ミ
9	水俣から福島へ 公害の経験を共有する	山田真	岩波書店	4207ヤ
10	神様のカルテ0	夏川草介	小学館	6102ナ0

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

編集後記

美しかった紅葉に見とれているうちに、今年も「散歩道」十二月発行の時を迎えました。月日の流れの早さに追われるように暮していると、つい心の栄養をとるのを忘れてしまいがちです。「忙」という字は、「心を亡くす」と書くのだとは言い古されたことですが、真実を言っていますよね。一〇分でも十五分でもちょっと立ち止まって、自分の心の中をのぞいてみる、その時、かたわらに本があったらすばらしいですね。

ボランティアそれぞれが持ち寄った本の数々、どうぞお読みになってみてください。よいお年を迎えられますように。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 TEL 0243-23-8308 (図書室直通)

福島県男女共生センター図書室だより

第 60 号
2016. 3. 20

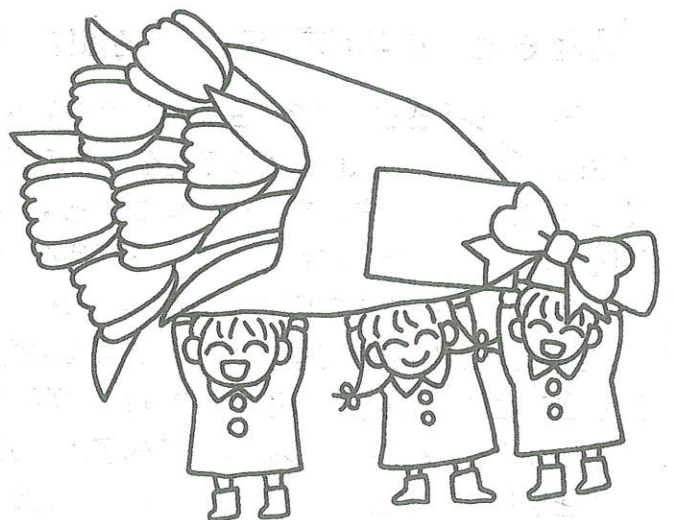
ライブラリー

散 歩 道

今月のテーマ

心に春のしずくを！

— おはなしいろいろ —



分類番号 6108 ナ

「カエルと王かん」

なかじまゆうき/作 山田真奈未/絵

この物語はカエルのピクローが森の入り口でぴかぴかと光る王かんを見つけたことから始まります。仲間のカエルたちが次々と王かんを見つけ、意外な展開になります。どうなるのか、子どもさんと一緒に読んで想像してみたいか、いかがでしょうか。見開きいっぱいの絵は手書きのやさしいイラストです。大人にも幼児にもお薦めしたい本です。(T. Y.)

分類番号 6108 マ

「ふたりのイーダ」 松谷みよ子 講談社

この本は戦争を体験した童話作家の著者が、話すことの出来る不思議な椅子を通して、原爆への怒りを、ミステリータッチで書いたものである。その椅子に腰かけていたイーダは帰って来ない、妹のゆう子待ち続ける少年直樹、やさしくてきれいな大人っぽいつ子姉さん、時空を超えたファンタジーである。平和への思い、命の尊さ、すき通るような悲しみ。読み易く子どもにもわかる言葉で書かれていて、平和の大切さが読み継がれる一冊である。(K. K.)

分類番号 6108 シ

「ふるさと 少年の読本」 島崎藤村 ネット武蔵野

作者の「ふるさと」である長野県木曾を舞台に、幼少時分の木曾路や遊び回った山や林のお話を一冊の童話にまとめている。父親として子どもたちに話し聞かせるような文体が癒しの時間を作り出す。明治時代の近世から近代への移り変わりを背景に、作者自身の体験がほのぼのとして挿絵と共に語られていく。当時の山深い木曾で営まれていた人々の生活や年中行事が生き生きと繰り広げられ民俗学の世界へ誘われるようだ。

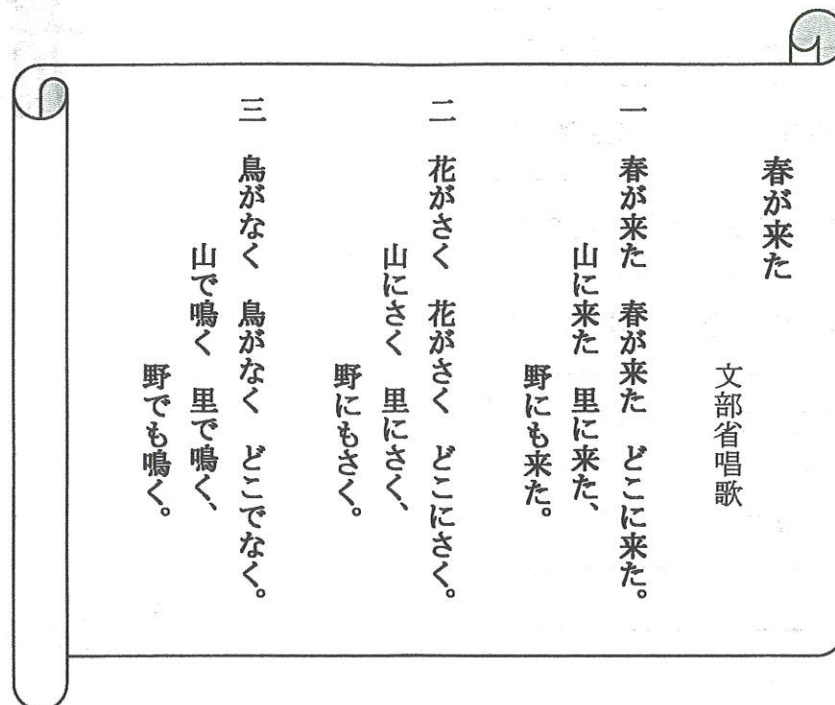
はしがきに「人はいくつになっても子どもの時分に食べた物の味を忘れないように、自分の生まれた土地のことを忘れないものです。たとえその土地が山の中でありましても。」と述べられている。この言葉を目にした時、東日本大震災から5年経過する福島に生きる子どもたちはもちろん、昔、子どもだった大人たちへもお薦めしたい一冊の絵本になった。(S. S.)

分類番号 6108 工

「魔女のたまご」

マデライン・エドモンドソン/作 ケイ・シューロー/絵
掛川恭子/訳 あかね書房

魔女の名前はアガサ、年は何百歳なのかわかりません。仕事は人間のことをこわがらせること、持ちものはほうきにスリッパにテレビ、好きな食べものはチョコ、クッキー。趣味は恐怖映画を見ること、性格はヘそまがり、いじっぱり。住所は、まいご山に一人住まい、友達は一人もなし。ところが、そんなアガサに、ある日、友達が出来たのです。どんな友達なのか?・・・これは読んでからの楽しみ。魔女の世界も実に人間の世界と似ているものですね。(K. M.)



分類番号 6108 コ

「曾孫に語り継いだ およしおばんちの昔話十二ヶ月」

小林幸子 日本図書刊行会

昨年末九十三歳で亡くなった漫画家水木しげる氏の作品の原点にあったのは、幼い頃お手伝いのおばあさん“のんのんばあ”から数多くきかされた妖怪や霊のお話だったそうです。やさしい語り口で話される“ものがたり”や“おはなし”は幼い子ども達だけでなく、大人の心をもすっぱりとつかんでくれます。著者は、自分が聞き覚えていた曾おばあちゃんの語る昔話を十二ヶ月に分けて記録して行くことによって、その季節々々の昔から伝わる風習や、自然・人との触れ合い、気持ちの持ちようの大切さを読み手に感じさせてくれます。当今の切迫した世相の中だからこそ、なおのことゆったりと読みたい本です。声を出して読むとなお深く感じる事ができます。お子さんにお孫さんに読んであげるのも良いと思います。お隣の山形のお話です。(W. T.)

分類番号 6108 工

「愛蔵版 モモ」

ミヒヤエル・エンデ
大島かおり/訳 岩波書店

「時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子のふしぎな物語」がサブタイトルです。女の子がモモ、モモを導き、時間どろぼうと対決するカメがカシオペア。時間をとりもどした世界では、道路で遊ぶ子どもたち、親しげにことばをかわし、笑いあう人々、ゆったりと愛情をこめて働く労働者たち…。東電原発事故後、道路で遊びさわぐ子どもの姿が見えなくなった団地をフト思い出しました。

この本を手にとったもう一つの理由が「本」です。15cm×10cmの大きさで、私の手の平の大きさ、文字と挿絵はセピア色。エンデの描いたモモの絵は少し私のイメージと違うけど、挿絵はすてきです。あっちこっちをめくりながら、「本」を楽しむのも読書の1つでしょうか。(A. K.)



分類番号 6108 力

「熊のイチゴ放し」

金森三千雄・作 狩野ふきこ・絵
発行/小さな出版社

「イチゴ放し」って何のことだろうと思ったのが、この本を手取るきっかけ。熊の夫婦に子が生まれ、育ち、やがてその子が親から独立して次の新しい命を生み出す相手を得る。この特別何でもないことを淡々と語っているのですが、絵が柔らかいモノクロなのです。どの絵にも不思議に明るい光が満ちていて、熊の住む森の様子が灰色のトーンで美しく描かれています。色彩がないので想像力がかきたてられます。森の四季の移ろいと、それと共に成長していく子熊と、その親熊に流れていく時間の経過とがみごとに一致しています。いい絵本だなと思いました。「イチゴ放し」とは、はて何でしょうか。読んでいくと自然にわかります。最後の方に出てくる短冊形式に描かれている夏から秋、冬そして春への4枚の絵がすてきです。(S. N.)

☆図書室から本の紹介をします☆

番号	書名	著者名	出版社	分類
1	思想をかたちにする 上野千鶴子対談集	上野千鶴子	青土社	1101ウ
2	女性たちの貧困“新たな連鎖”の衝撃	NHK「女性の貧困」取材班	幻冬舎	1101エ
3	モラル・ハラスメント こころのDVを乗り越える	橋本俊和 橋本智子	緑風出版	1501ハ
4	一〇三歳になってわかったこと 人生は一人でも面白い	篠田桃紅	幻冬舎	2110シ
5	はじめての福島学	開沼博	イースト・プレス	2106カ
6	農業女子 女性×農業の新しいフィールド	伊藤淳子	洋泉社	2209イ
7	へこたれない子になる育て方	高濱正伸	プレジデント社	3206タ
8	働きながら、親をみる 自分の人生をあきらめない介護	和田秀樹	PHP研究所	4102ワ
9	子育て主婦が知っておきたいお金の話	こうだなみこ	経済法令研究会	4201ゴ
10	フタバから遠く離れて II 原発事故の町からみた日本社会	船橋淳	岩波書店	4208フ2

利用ガイド

◎利用時間

9:00~20:00

(休館日 前日 9:00~17:00)

◎貸出冊数

本 5冊 15日以内

ビデオ 3本 8日以内

※どなたでも無料でご利用できます。

※図書室内での飲食、携帯電話

の使用はご遠慮ください。

編集後記

六十号をお届けいたします。
原稿持ち寄りの日、一月十九日は大雪で、玄関からの広い場所の雪かきを職員の方々が交替でされていきました。大変だったと思います。その後、何度か降った雪も思いのほか早く消えて、光が明るく溢れる待望の春、気持ちも体もこの頃にはぴりぴりしてきます。六十号は、とりつきやすい本が紹介してあります。どうぞ陽光の中で、お気に召した一冊をお楽しみください。

発行者：公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構 福島県男女共生センター図書室だより作成ボランティア

図書室へのお問い合わせは

〒964-0904 二本松市郭内一丁目 196-1

福島県男女共生センター「女と男の未来館」 Tel. 0243-23-8308 (図書室直通)